

治水

発 行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町 2-7-5(砂防会館内)
電 話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <http://zensuiren.org/>
お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp
編集・発行 檜崎晃久



● 目 次

九州地方治水大会についてのご案内	2
北陸地方治水大会の開催について(ご案内)	4
四国地方治水大会の開催について(ご案内)	6
中国地方治水大会についてご案内	8
大河津可動堰改築事業の完成	10

九州地方治水大会についてのご案内

平成 26 年 10 月 21 日(火) 13:30 ~
 沖縄県男女共同参画センター「ているる」
 沖縄県土木建築部河川課

平成 26 年度の九州地方治水大会の事務局を担当します沖縄県から、九州地方治水大会のご案内をさせていただきます。関係各位の多数のご参加をお願いいたします。

沖縄県は、九州から台湾に連なる南西諸島の南半分、およそ北緯 24 度から 28 度、東経 122 度から 132 度に位置しており、距離にして東西約 1,000Km、南北約 400Km に及ぶ広大な海域に散在する琉球諸島から成っています。琉球諸島には 160 の島々があり、そのうち沖縄本島、宮古島、石垣島、西表島等の 49 の島に人が住んでいます。

亜熱帯・海洋性気候にあり、年平均気温は 23.1 度と一年を通じて温暖で、珊瑚礁の発達した海、西表島のイリオモテヤマネコや沖縄本島北部のノグチゲラ等、貴重な野生動植物が生息・生育する等、恵まれた自然環境にあります。

また、アジア大陸に近く、古くから海外交易がさかに行われてきたため、独自の歴史や文化が育っています。こうした沖縄ならではの歴史や文化は、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録された首里城跡や斎場御嶽(せーふあーうたぎ)をはじめ

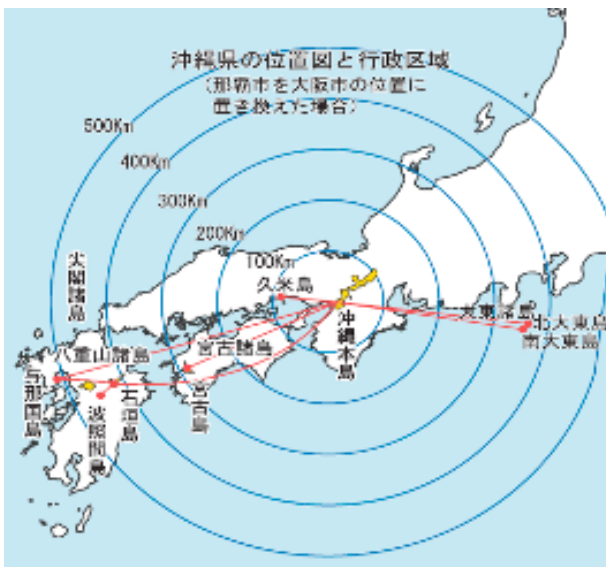
めとした遺跡や、琉球王国の面影を残す伝統工芸や芸能、独自の慣習や料理等に見ることができます。

沖縄県には、大小あわせて 300 あまりの河川があり、そのうちの 51 水系 75 河川が二級河川、13 水系 21 河川が準用河川となっています。

本県は小さな島々から構成され、比較的大きな沖縄本島でも南北に細長いという地形的条件から、いずれの河川も、流域面積が小さく、流路延長が短くて急勾配となっています。台風期・梅雨期等には、短時間での降雨量が極めて大きいという特性と相まって、河川の水位が一気に上昇する特徴があります。

一方では、この地形的条件のため、降雨の殆どが直接海へ流出し、平常時の流量は極端に少なくなります。少雨傾向が続くと河川流量が著しく低下し、河川から安定した水資源を確保することが困難な状況となっています。

これまでに行われた河川事業により、本県における河川の氾濫は、近年、着実に減少していますが、流域における市街化の進展や、山地開発に伴う流出率の増大、保水能力の低下等、河川に関わる諸条件が悪化し、都市部における未整備区間とその周辺に浸水被害が多発しています。そのため、開発が著しく氾濫被害が増加傾向にある都市部の浸水被害軽減を図るため、人口集中地区の河川整備を重点的に推進しています。整備にあたっては、沖縄独自の自然景観や生態系に配慮した多自然川づくりを積極的に推進するとともに、地域に親しまれる河川環境の保全・



首里城正殿



安里川さいおんスクエア

創出に取り組んでいます。



奥川の多自然かわづくり

また、県のダムとしては、沖縄本島周辺離島における多目的ダムの我喜屋ダム(伊平屋村)、座間味ダム(座間味村)、真栄里ダム(石垣市)、沖縄本島における治水ダムの金城ダム(那覇市)及び多目的ダムの倉敷ダム(沖縄市)の計5ダムを管理しています。また現在、久米島において多目的ダムの儀間ダム(久米島町)を建設中で、今年2月から試験湛水を開始しており、来年4月には試験湛水が完了する見込みとなっています。

県のダム事業とは別に、本県では、沖縄振興特別措置法(旧沖縄振興開発特別措置法)に基づき、国による多目的ダム建設が推進されてきました。平成25年度に金武ダムが竣工し平成26年度から供用開始され、現在9ダムが国によって管理されています。これらの多目的ダムによる治水効果と併せ、以前は頻発していた断水が、平成5年度の31日間の時間断水を最後に、沖縄本島では発生していません。

去った7月に沖縄地方に襲来した台風8号では、台風では国内初となる特別警報が発令されました。沖縄本島の南北を繋ぐ幹線道路である国道58号及び国道329号が、二級河川である比謝川及び天願川の氾濫による冠水で通行不能となった他、各地で強風、大雨による人的被害、住宅被害、公共施設損壊、農産物被害等の大きな被害が発生しています。

この台風8号の襲来の際、沖縄県の人口の約40%に相当する約60万人に対し避難勧告が発令さ

れています。しかしながら、台風の中、堅固な建物内にいるにも関わらず避難所へ移動した住民がいた等、特別警報に伴う避難勧告への対応に混乱が生じており、課題が示されたものと考えています。

河川氾濫を防止し、住民の生命財産を守る河川整備は期間を要することから、本県では、これを補うソフト対策として、河川の水位等、河川情報を迅速に分かりやすく配信できるシステムの機能強化に取り組んでいるところです。



台風8号による国道58号の冠水

最後になりますが、平成26年度の九州地方治水大会を10月21日に沖縄県那覇市で開催することとなりました。会場の「沖縄県男女共同参画センター」は、那覇空港から車で15分、沖縄本島で最も有名な観光ストリートである国際通りへ車で10分という位置にあります。国際通りや、そこから一歩脇へ入った路地には、数々の土産物店や沖縄料理店等が立地しています。この機会に、是非、アメリカ文化にも影響を受けた沖縄グルメを堪能して頂けたらと思います。

また、治水大会のオープニング講演として、沖縄伝統「組踊」の名場面の実演と解説を予定しています。組踊は、琉球王朝時代に中国皇帝の使者である冊封使を歓待するために創作されたもので、国指定の重要無形文化財であり、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。本県の独特な文化の一端に触れて頂ければ幸いです。

多数の皆様のお越しを心からお待ちしております。

メンソーレ沖縄



儀間ダム試験湛水の状況

北陸地方治水大会の開催について(ご案内)

平成 26 年 10 月 24 日(金)
新潟市 新潟グランドホテル
新潟県土木部河川管理課

平成 26 年度の北陸地方治水大会の事務局を担当している新潟県から北陸大会のご案内をさせていただきますので、関係各位の多数のご参加をお願いいたします。

新潟県のすがた

新潟県は、本州の日本海沿岸のほぼ中央に位置し、朝日山地、飯豊山地、越後山脈が東側に連なり、西側には妙高山などの山々がそびえております。これらの山岳地帯を源として信濃川、阿賀野川など数多くの河川が日本海にそそぎ、越後平野、高田平野など広大で肥沃な平坦地を形作り、全国有数の米どころ産地となっております。

面積は 12,584km²で全国第 5 位、人口は約 232 万人で全国第 15 位となっております。また、海岸線は 330.9km と非常に長く、その海岸線は多様な自然景観・環境を有し、変化に富んだ海岸美を形成しており、毎年県内外から多くの利用者が訪れています。

新潟市の北西約 45km の日本海上には佐渡島があり、その北東には粟島があります。

佐渡島は、周囲 280.6km、面積 855km²と日本最大の離島であり、北の大佐渡、南の小佐渡を山脈が平行に走り、中央部には国仲平野が広がっております。その佐渡島では、平成 15 年に日本の野生のトキが絶滅しましたが、平成 24 年にトキのヒナが 36 年ぶりに自然界で誕生し、38 年ぶりに無事巣立ちました。そして、その後 2 年連続して巣立ちに成功しており、平成 26 年には環境省が掲げていた目標の「佐渡島内で 60 羽定着」を 1 年程度早く達成するなど、佐渡島内のトキの野生復帰に向けて取り組んでおりま



佐渡島内で悠々と羽ばたくトキ

す。

河川の現状

新潟県には我が国最長の信濃川をはじめとして荒川、阿賀野川、関川、姫川の一級水系 767 河川と二級水系 399 河川を合わせた合計 1,166 河川、総延長約 5,195km を有しております。そのうち延長約 4,921km が、新潟県管理河川となっており、県では限られた予算の中で早期に浸水被害の解消、軽減を図るため、水害対応等、河川の重点的整備や河道流下能力の低い箇所の一時的な施工により安全度を段階的に上げるなど、効果的、効率的な整備を進め、防災・減災などによる安全・安心の向上を図っているところです。

近年の災害発生状況と今後の取り組み

新潟県は、過去においても多くの災害を経験しており、昭和 39 年には新潟市を中心に甚大な被害が発生した新潟地震、昭和 41 年、42 年には 2 年続けて県北の下越地方を襲った羽越水害などがありました。

近年においては、気候変動による集中豪雨などによる浸水被害を受け、尊い人命と貴重な財産が失われております。

特に、平成 16 年に発生した 7.13 新潟豪雨水害では一級河川五十嵐川や刈谷田川など 6 河川 11 か所で破堤するなど、死者 15 名、住宅の全半壊、床上・床下浸水 13,800 棟以上の被害が生じました。

また、平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨では一級河川五十嵐川をはじめ 6 河川 9 か所で破堤するなど、死者、行方不明者 5 名、住宅の全半壊、床上・床下浸水 9,500 棟以上になるなど甚大な被害が生じました。

しかし、平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨では、近年被害の大きかった平成 16 年 7.13 水害を下回る浸水被害となっております。このような結果は、刈谷田川の遊水地などの洪水対策の効果が発揮されるなど 7.13 水害の災害復旧をはじめとするハード対策の推進のほか、早期の避難勧告・指示などソフト面で 7.13 水害を教訓とした地域における地道な防災の取り組み等もあり、過去の豪雨災害と比較しても、人的被

害を低く抑えられたとされております。

県では引き続きハード対策の推進に取り組むとともに、洪水ハザードマップの作成支援や水位周知河川の指定の拡充など防災・減災のためのソフト対策の充実を図るなどハードとソフトの両面から総合的に治水対策を推進してまいります。



平成 23 年 7 月災害時に遊水地の洪水対策効果が発揮された刈谷田川

また、今後、高度成長期に建設された河川施設やダム等の公共土木施設が急速に老朽化し、機能が補修や更新が必要になる施設が増大することが予想され、これら施設が適正に維持管理されなければ、機能を発揮できない施設が発生するなど、県民の生活に多大な影響を及ぼす恐れがあります。

そこで、県では県民に安全で安心な社会資本を提供することを目的に必要な維持管理・補修が長期的に行えるよう、河川や道路などの 12 施設について、社会資本維持管理計画を策定し、平成 26 年 6 月に公表しました。

今後は、本計画に基づき必要な点検・調査等を行ったうえ、予防保全によるトータルコストの縮減を図り

ながら、計画的かつ効果的な維持管理を進めることとしております。

北陸地方治水大会の開催

さて、この度、10月24日(金)に北陸地方治水大会を新潟市で開催することとなりました。会場となる新潟グランドホテルは、日本一長い河川である信濃川の河口に位置し、重要文化財指定の萬代橋も眺めることができます。対岸には新潟市街地はもちろんのこと日本海、佐渡島、飯豊連峰など 360 度の大パノラマを一望できる高さ地上 125m の展望室があり、その屋下の朱鷺メッセからは雄大な信濃川を遊覧する観光水上バスも出航しておりますので、御来場の際は、是非足を運んでいただければと思います。

また、新潟を知るうえで、欠かせないものが「食」ですが、美味しい米あり、美味しい酒あり、そして日本海で揚がる新鮮な魚ありと、新潟に来て是非味わって頂きたいものが沢山ありますので、この機会にぜひ堪能していただければ幸いです。



秋に稲穂が垂れる新米コシヒカリ



日本海で揚がった新鮮なお刺身

四国地方治水大会の開催について(ご案内)

平成 26 年 10 月 28 日 13:30 ~
徳島市 徳島グランヴィリオホテル
徳島県 県土整備部 河川振興課

今年度の四国地方治水大会事務局を担当している徳島県から、本県の PR も含めご案内申し上げます。関係者の多数のご参加をお願いいたします。

徳島県のすがた

徳島県は、総面積が約 4,145km²で、四国の東の端に位置し、北は香川県、南は高知県、西は愛媛県に接しており、北東部から南東部にかけては瀬戸内海を隔て近畿地方に相對しています。

地勢は山地が多く、その中央部を東西に四国山地が走り、1,000m 級の山々が県土を南北に 2 分しています。この山地の南面は森林地帯が形成され、県土の約 8 割が森林で覆われています。

中でも 1,955m の剣山は西日本第 2 の高峰であり、高山植物などの豊かな自然を育てています。

四国山地の南北にはそれぞれ那賀川と吉野川の一級水系が西から東へ向かって通っています。特に北側を流れる吉野川は、「四国三郎」と呼ばれる日本有数の大川で、河口部では肥沃な徳島平野が形成されています。



吉野川河口域

河川の現況

徳島県には、東西にのびる吉野川、那賀川及びこれらの支派川で形成する一級水系のほか、四国山地から東流して太平洋に注ぐ数多くの二級水系があります。

本県の一級河川は、吉野川、那賀川水系の 368 河川であり、総延長は約 1,520km となります。また、二級河川は 39 水系の 129 河川であり、総延長は約 440km となります。

河川の形状は、四国特有の急流河川であることから流出率が非常に高く、過去から洪水による数々の災害を引き起こしています。

河川の特徴として、吉野川の北側に流れ込む各支川は、鉄砲水といわれる出水が発生し、崩壊性に富む山地土砂を流掃することにより、その多くが天井川となっています。

吉野川下流の各支川は、流路の変遷が幾度となくなされ、支川流域がほとんど平坦地で、河川勾配も非常に緩やかなため、洪水時には本川(吉野川)水位の影響を受け流下が滞る内水問題を持つ河川が数多くあります。

那賀川水系及び県南の各河川は、その流域の複雑な山地地形と太平洋気流の影響をうけて、しばしば局地的な集中豪雨を受けることから、比流量が大きいといった特徴を持っています。

また、紀伊水道に面した吉野川、那賀川の両デルタ地帯の臨海部の平野は、南海地震等により地盤が沈下したため、この地域の河川は高潮の影響を受けやすくなっています。

近年の浸水被害と今後の取り組み方針

近年の主な水害としては、「災いの年」といわれる平成 16 年の台風 23 号の影響により、県内全域で多くの降雨がありました。

特に、一級河川吉野川では戦後最大の流量を記録し、上流域の無堤地区では外水はん濫による浸水被害が約 500 棟を超えるとともに、堤防が整備されている下流域においても約 1,300 棟を超える家屋が内水による浸水被害を受けました。

この水害を契機に、国においては「床上浸水対策特別緊急事業」により、角ノ瀬排水機場を整備、平成 20 年度に 20m³/s のポンプが完成し、県においても、平成 18 年度から平成 22 年度までの 5 年間で「総合内水緊急対策事業」として、「加減堰」の下流約 1.2km 区間の河道改修、最下流にある飯尾川第二樋門の改修を実施し浸水被害の軽減を図りました。

また、広範囲に点在する浸水に対し機動的な対応が可能となるよう排水ポンプ車を導入しました。



平成 16 年台風 23 号浸水状況 (吉野川市役所周辺)



飯尾川第 2 樋門 (平成 23 年竣工)

また、本年 8 月には台風 12 号の影響により、吉野川流域では、総雨量 1,400mm を超える降雨を観測し、戦後第 4 位となる水位に到達しました。

引き続き県内を縦断した台風 11 号でも、那賀川流域において 1,700mm を超える降雨を観測し、昭和 30 年 (1955) の観測開始以来最大となる水位を記録し、流量は戦後最大を上回りました。

これにより、那賀川流域の阿南市では加茂地区を中心に床上 152 棟、床下 306 棟、那賀町でも和食地区などで床上 256 棟、床下 106 棟の家屋浸水被



平成 26 年台風 11 号浸水状況 (加茂谷中学校)

害が発生するなど、この 2 つの台風の影響により、県南部を中心に、約 3 千棟にも上る家屋浸水被害が引き起こされました。

国及び県においては、早急に、これらの洪水を検証し、必要な対策の検討を進め、再度災害防止に努めて参ります。

この平成 26 年 8 月豪雨については、徳島大学大学院教授・環境防災センター副センター長である中野晋さまから御講演いただくこととしておりますので、是非、御聴講ください。

四国地方治水大会の開催

さて、開催地となります徳島県には、「吉野川」をはじめ、世界最大級の大きさを誇る「鳴門の渦潮」や国定公園指定 50 周年を迎えた「剣山」などの、「豊かな自然」とともに、阿波おどりはじめとする「類い稀な伝統文化」や本県特産の「すだち」の他、「なると金時」、「鳴門わかめ」や全国一の地鶏生産量を誇る「阿波尾鶏(あわおどり)」など新鮮で安全・安心を誇る「豊富な食材」といった、素晴らしい「宝物」があります。

四国八十八ヶ所霊場の遍路文化で培った「お接待」の心で、皆様を温かくお迎えさせていただきますので、この機会に是非、本県にお越し頂き、「宝の島・徳島」の魅力を存分に体感して頂ければと思います。

皆様のご参加を心からお待ちしております。



世界最大級の大きさを誇る「鳴門の渦潮」

中国地方治水大会についてご案内

平成 26 年 10 月 29 日
松江市 島根県民会館
島根県土木部 河川課

今年度の中国地方大会の事務局を担当します島根県が PR をさせていただきます。関係者の多数のご参加をよろしくお願いいたします。

1. 島根県の概要

県の河川は、一級河川 3 水系 455 河川、二級河川 71 水系 145 河川、合計 74 水系 600 河川で総延長 2,959km に及んでいます。

二級河川のほとんどは中国山脈に水源を発生し、その北斜面を流下して日本海にそそぐ、流路延長が 50 km 以下で流域面積の小さい急流河川です。

また、県内には国管理の 2 ダム、県管理の 12 ダム、県企業局管理の 2 ダム、中電管理の 5 ダム、農地防災・かんがい用ダム等の 8 ダム合計 29 ダムが建設され、洪水調節、流水の正常な機能の維持、上水道、工業用水の供給及び発電を行っています。

島根の河川は、県土が東西に細長く、その多くが日本海に流れ小流域のものが多く、また、風化浸食を受けやすい地質のため、わずかな降水量でも災害が発生しやすい状況にあります。昭和 47、58、63 年の大災害を始めとして、過去幾多の災害に遭ってきたことから、河川の治水対策を長年にわたり実施しています。

改修を要する河川の整備率は、わずか 30% と低く、近年でも平成 18 年 7 月豪雨、平成 19 年の隠岐災害、平成 25 年の県西部豪雨災害等、甚大な被害を受けており、災害に弱い河川を多く抱える県として、今後一層の事業推進を図る必要があります。

「島根総合発展計画」においても、「安心して暮らせるしまね」、「心豊かなしまね」を掲げて、河川改修を効率的、重点的に進めています。

島根の海岸は、島根沿岸と隠岐沿岸に大別され、その総延長は 1,027km に及んでいます。そのうち島根沿岸の島根半島部(松江市～出雲市)の海岸は主として岩礁地帯で形成されており、出雲部(出雲市西部)は主として砂浜海岸が多く見られます。また、県中央部(大田市)の海岸は岩礁地帯で、それより以西(江津市～益田市)の海岸については砂浜と岩礁地帯とが交互になって形成されています。隠岐沿岸について

は、岩礁で形成されています。

海岸は、約 1,027km に及ぶ美しい景観を形成していますが、厳しい日本海の冬期風浪の高波浪による沿岸地域への災害や海岸侵食が顕著化しています。

このため、県土の保全を図るとともに、県民の安全な暮らしを実現するため、島根県は平成 21 年 3 月に「海岸保全基本計画」を改訂し、美しく安全でいきいきとした海岸づくりを目指して、海岸保全施設の整備を効率的重点的に進めています。

2. 平成 25 年度 県西部豪雨災害

平成 25 年は、全国各地で過去に経験のないような大雨による大きな自然災害が多発し、島根県でも 7 月、8 月と記録的な豪雨により県西部の津和野町、浜田市、江津市、邑南町を中心に甚大な被害が発生しました。

7 月 28 日未明からの大雨では、津和野町では最大時間雨量 91.5mm、日最大雨量が 381mm に達するという未曾有の豪雨に見舞われ、また、8 月 23 日の大雨では、江津市桜江で最大時間雨量 92.5mm、25 日 11 時までの総雨量が 474mm に達するなど、「昭和 58 年 7 月豪雨」災害を上回る猛烈な豪雨となりました。

これにより、道路の決壊や河川護岸の崩壊などが発生し、県、市、町の公共土木施設については、約 1,900 箇所、173 億円余の甚大な被害が発生しました。

特に被害の大きかった津和野町を流れる津和野川及びな名賀川では、護岸の決壊や河道閉塞により川が氾濫し家屋浸水、JR 山口線や県道が流失しました。

被災した箇所の復旧には、災害復旧事業による原形復旧のみでは再度災害が発生する恐れがあることから、同程度の洪水が発生しても再度災害を受けることが無いよう、被災箇所を含む一定計画において川幅を広げる災害復旧助成事業を実施しています。

昭和 47 年、昭和 58 年災害などこれまで幾度なく集中豪雨による被害に見舞われてきた本県では、県民の生命、身体及び財産への被害の発生を軽減するため、道路防災対策、治水対策、土砂災害対策など自然災害に強い県土づくりと合わせ、記録的な気象状況にあっては、住民の安全確保のため、適切な情報伝達、避難誘導等のソフト対策についても計画的



H25.7時点（被災直後）

JR 山口線 H26.8.23再開



H26.8.23時点（現在）

に取り組んでいます。

各地域では、本格的な災害復旧工事が始まっておりますが、被災された地域の方が一日も早く安心して暮らせるよう、引き続き、早期完成に全力を挙げて取り組んでいます。

3. おわりに

60年ぶりの出雲大社「平成の大遷宮」は、5年間にわたる御本殿修造が終わり、平成25年5月10日に「本殿遷座祭」が執り行われました。新しく生まれ変わった御本殿に参拝できるこの貴重な機会に、ぜひ島根へお越しください。

今年10月5日には、高円宮家の次女、典子さまと出雲大社（島根県出雲市）禰宜（ねぎ）の千家国麿さんの結婚式が、出雲大社で執り行われる予定です。

大会の会場である「水の都松江市」には、「松江城」、「堀川遊覧」、「和菓子」、「地酒」や神話の国ならではの「八重垣神社」など神社仏閣たまつくりも多い観光地です。

また、「松江温泉」や「玉造温泉」など宿泊施設も充実しておりますので是非とも、来県していただきますようお待ちしております。



出雲大社



宍道湖の夕日

大河津可動堰改築事業の完成

— 大河津分水路の抜本的な改修に向け —

北陸地方整備局 河川部

1. はじめに

大河津可動堰は、信濃川の河口から約 60km 上流に位置し、越後平野を守るために洗堰とともに信濃川の流量調整を行っている重要な施設です。

旧可動堰は、昭和 6 年（1931）に建設された堰で、流下能力の不足及び洪水時の右岸堤防への水あたりの集中に加え施設の老朽化が著しく堰柱の劣化や基礎部の空洞化が生じ、堰の安全性が低下したことから平成 15 年度（2003）より特定構造物改築事業として改築事業を進め、平成 25 年度（2013）に一連の工事が完成しました。



信濃川と大河津分水路

2. 可動堰改築事業の概要

大河津分水路は、信濃川の度重なる洪水から越後平野を守るために、信濃川が日本海に最も近づく燕市分水町から寺泊海岸まで開削された延長約 10km の人工河川です。

大河津分水路の建設は、江戸時代から流域住民が幕府に請願を行い続け、明治 3 年（1870）に事業着手しましたが財政難等を理由に一端中止されました。その後、明治 29 年（1896）の大洪水により起こった「横田切れ」を契機に明治 42 年（1909）から大河津分水路本格的な工事が開始され、大正 11 年（1922）に通水しました。その後、補修工事等を行い昭和 6 年（1931）に旧可動堰は建設されました。

旧可動堰については、基準点小千谷から下流で一番流下能力が不足していること、洪水時に右岸堤防へ水あたりが集中し危険な状態であること、また、基礎部の空洞化や堰柱、ゲートなどの劣化が進行し



完成した可動堰改築事業全体

安全性が大きく低下していること等が確認されていました。このため平成 15 年度（2003）から旧可動堰の改築事業に着手しました。

事業の内容は、新可動堰の建設によって旧可動堰から河床を 4m 低くし、幅も約 1.5 倍に広げることによる流下能力の向上と本体の老朽化対策及び右岸側に寄っている低水路を河道の中央部に移し新たに高水敷を造成することで右岸堤防の強靱化を図るものです。

工事は、旧可動堰を運用しながら進める必要があったことから、まず河道の中央部（左岸高水敷）に新しい可動堰を建設することから始まり、上下流に新しい低水路を掘削し平成 23 年（2011）11 月 23 日に新可動堰への通水を行いました。その後右岸側の高水敷造成及び旧可動堰の取り壊しを行い平成 25 年度（2013）に一連の工事が完了しました。

新しい可動堰の特徴は、河川の堰では珍しいラジアルゲートを採用しています。ゲートは、幅約 40m、高さ 6.75m で全部で 6 門設置されました。また、護床工には、信濃川の伝統技術である粗朶沈床を採用しました。また、左右岸に設けられた魚道は、3 タイプの異なる形式を設置し鮭から鮎、ウナギまで多くの魚類に配慮しました。



完成した新可動堰

3. 大河津可動堰改築事業竣工式の概要

平成 26 年（2014）6 月 29 日（日）に新潟県燕市五千石地先の新しく造成された右岸高水敷において、北陸地方整備局及び大河津分水改修促進期成同盟会の共催により地元選出の国会議員や関係市長等約 200 名の出席のもと竣工式を開催しました。

式典では、中原国土交通大臣政務官と大河津分水改修促進期成同盟会会長の篠田新潟市長が主催者挨拶を行い、続いて新潟県知事（花角副知事（代理））、地元選出の国会議員の方々、中野新潟県議会議長、森長岡市長、鈴木燕市長からご祝辞を賜り、新可動堰への期待、大河津分水路の重要性及び抜本改修の早期着工、更に安全・安心な地域をつくるための社会資本整備の推進などについてお言葉をいただきました。その後、福渡信濃川河川事務所長が事業報



中原国土交通大臣政務官の挨拶



篠田新潟市長の挨拶

告を行い、最後に新しい可動堰のシンボルとして設置した管理橋親柱の除幕を行いました。

式典の終了後には、地元市民による分水太鼓の演奏及びよさこいの演舞、地元保育園の園児による稚魚の放流が行われ完成を祝いました。



新可動堰のシンボルとして親柱の除幕

4. おわりに

新可動堰の建設により、信濃川流域の治水安全度は一定の向上が図られました。

しかし、大河津分水路は、河口に向かい川幅が狭まる形状のため、流下能力が不足している箇所が存在します。平成 23 年（2011）7 月洪水では、全量を大河津分水路で直接日本海へ放流することができましたが、分水路の直上流で計画高水位を超過するなど、抜本的な改修が必要となっています。そこで、平成 26 年（2014）1 月に策定した信濃川水系河川整備計画では、大河津分水路の改修を優先的に進めることが位置づけられました。

今後は、大河津分水路の抜本的な改修に向け、調査、検討を進めて行くこととしています。